

南区地域子育て支援拠点事業 5か年のまとめ 実施概要

対象事業	南区地域子育て支援拠点事業
対象期間	平成29年度～令和3年度(5か年度)
事業の実施者	特定非営利活動法人 さくらザウルス
	南区子ども家庭支援課
実施目的	<p>1 今期5か年の事業を振り返り、成果や課題、今後の方向性などを整理します。</p> <p>2 市民協働事業の実践を通じて経験を蓄積し、その後の市民協働や市民協働事業に活かしていくため、また、当該協働事業の当事者だけでなく、多くの市民等の協働への参加意欲を高めるため、当該評価を公開し、透明性を高めます。</p>
実施時期	令和3年5月
実施について	<p>拠点事業は、区と運営法人との協働により進めています。</p> <p>毎年度、事業ごとに定めている「目指す拠点の姿」に沿って役割分担し、行動計画を立て、年度末には「振り返りの視点」に沿って取組の振り返りを行いながら事業を進めてきました。また、中間期には「有識者を交えた事業評価」を実施し、事業の運営・管理にフィードバックして拠点運営状況の向上を図っています。</p> <p>今回は、中間期に行った「有識者を交えた事業評価」にその後の事業振り返りを加え、今期5か年のまとめとしました。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【参考】 拠点の7事業</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 乳幼児の遊びと育ちの場及びその養育者の交流の場の提供（親子の居場所事業） 2 子育てに関する相談及び関係機関との連携に関すること（子育て相談事業） 3 子育てに関する情報の収集及び提供に関すること（情報収集・提供事業） 4 子育てに関する支援活動を行う者同士の連携に関すること（ネットワーク事業） 5 子育てに関する支援活動を行う者の育成、支援に関すること（人材育成、活動支援事業） 6 地域の住民同士で子どもを預け、預かる支え合いの促進に関すること（横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業） 7 子育て家庭のニーズに応じた施設・事業等の利用の支援に関すること（利用者支援事業） </div>

1 親子の居場所事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①利用者を温かく迎え入れる雰囲気のある場になっている。	・多様な養育者と子どもの潜在的なニーズを把握するため、ひきつづきアウトリーチを含め、重層的な手法で取り組む必要がある。 ・把握したニーズを拠点の他機能を生かしながら関係機関と共有して新しい事業や支援に結び付けていく必要がある。 ・子ども同士が育ちあう居場所となるように環境を工夫し、周囲の大人も意識的に配慮し関わることが必要である。	A	B
②多様な世代、性別等の養育者と子どもが訪れる場になっている。		A	A
③養育者と子どものニーズ把握の場になっている。		B	A
④親(養育者)自身が親として育ち、また子どもが育つ場となっている。		B	A
☆区内各地域の親子が集え、交流できる場を提供できている。		A	A
評価の理由(法人)			
<p>【実績統計】 年度末登録数:平成29年度2,312人 平成30年度2,456人 令和元年度2,295人 年間利用者数(開館日数):平成29年度27,157人(243日) 平成30年度29,041人(241日) 令和元年度22,854人(218日) 父親の(大人の)利用者にあたる割合:平成29年度 6.0% ⇒平成30年度 6.9% ⇒令和元年度7.6%</p> <p>【むし歯の罹患率】 1歳6か月児健康診査 平成30年度—1.75%(市平均1.05% 18区中17位) 3歳児健康診査 平成30年度—14.68%(市平均9.3% 18区中18位)</p> <p>【はぐはぐの樹利用者アンケート(令和元年度)】 自分や子どもの友だちを作りやすい雰囲気になっている:あてはまる37.5%、ややあてはまる52.5% 子どもが他の子どもと一緒に過ごし、様々な関わりを経験できる場になっている:あてはまる64.5%、ややあてはまる33.5%</p> <p>【南区地域子育て支援拠点「はぐはぐの樹」に関する利用者アンケート(令和元年度)】 子どもへの対応(遊び方・声のかけ方など)が子育ての参考になった:そう思う39.5%、ややそう思う38.7% 異年齢の子どもの様子を見たり交流することで、子どもの成長の見通しがつくようになった:そう思う39.5%、ややそう思う39.5%</p> <p>【プレママ会参加者アンケート(令和元年度)】 プレママ会を何で知りましたか?:両親教室33.8%, 母子健康手帳交付時31.1% プレママ参加者数:平成29年度42人(年12回) 平成30年度46人(年12回) 令和元年度66人(年11回) 参考 両親教室参加数:令和元年度 平日妊婦155人、夫79人(年11コース) 土曜日妊婦70人、夫68人(年4回)</p>			
<p>①【利用者同士の交流を促す温かな場づくり】 ・入館時に笑顔と挨拶で利用者を温かく迎え入れることができた。初回利用の方には館内説明を丁寧に行い、その後は他の利用者との交流が持てるように働きかけた。退館時にも、一声かけて送り出すよう心掛けた。 ・妊娠期の方が来所したときは他の利用者につないだり、地域の情報提供を行った。また、プレママカードを導入して図書の貸し出しを可能にしたことで再来所するきっかけを作るようにした。出産後は先輩ママとして自主的にプレママ会に参加する利用者もいた。 ・両親教室に出向いて拠点をPRし、「プレママ会」への参加につなげることができた。はじめて参加する方が不安なく来所できるように「0才児はじめましての会」を新たに毎月実施した。</p>			
<p>②【多様な養育者への働きかけと周知の工夫】 ・同じ背景、関心を持った人たちが交流できる座談会を「多胎児」「トイレトレーニング」「アラフォーママ」「外国人養育者」「シングルママ」等のテーマで、対面及びオンラインで実施した。必要な利用者に情報が届くようにミニチラシを作成し、区にも配布を依頼した。 ・若年層の支援を、区と、親と子のつどいの広場(M-HOUSE三春台)と連携して「わかママ会」として実施した。LINEを活用した開催通知や話題作りしやすいプログラム等、参加のハードルを下げるよう工夫した。 ・父親の利用は徐々に増えていて一定数あるが、父親向けのプログラム参加者数には波がある。父親への周知方法と、交流を促すプログラムとして、「パパ限定!日曜はぐはぐ」を実施した。 ・ホームページからプログラムの申し込みができるよう整備したことで利用者が気軽にプログラムに参加できるようになった。</p>			
<p>③【ニーズ把握とその対応】 ・「はぐミーティング」(注1)では前向きで率直な意見を聞くことができ、居場所運営に意見を反映できた。また、意見箱に寄せられた提案について検討、対応できた。 ・利用者アンケートを毎年行い、結果を次年度の事業計画やスタッフの対応等に反映させた。</p>			
<p>④【利用者の力が発揮された活動の広がり】 ・「絵本サポーター」(注2)は、「しゃべりング(注3)絵本大好き」の企画・広報・進行を行うほか、「絵本のお楽しみ袋」やオススメ絵本紹介カードを作り、そのバックナンバーをファイルする等、新しいアイデアを実現させながら主体的に活動を続けていて、「はぐはぐの樹子ども図書館」(注4)の大きな支えとなっている。 ・「はぐミーティング」などのプログラムや、居場所でのスタッフの声掛けをきっかけにして、利用者による企画・実施の「物々交流会」「しゃべりング仕事」「しゃべりングGLOBAL FRIENDSHIP」「子連れ防災を考える～液体ミルク試飲会～」「クリスマス会」が行われ、利用者が特技や興味関心を生かす機会を作ることができた。</p>			

様式1-1 地域子育て支援拠点事業評価シート

<p>☆【アウトリーチの場の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区内5か所で「おでかけ広場」を毎月2回程度実施し、利用者同士の交流を促す声掛けをするとともに、周辺の地域情報の提供や、子育てサポートシステムの紹介も積極的に行った。 ・保健師、横浜子育てパートナーが会場に来た時には、相談しやすいよう利用者に声掛けを行った。横浜子育てパートナーの出張相談から拠点利用に繋がることもあった。 ・遊びの場としてだけでなく、歯科衛生士による「歯科相談」、福祉保健課保健師による「乳がん予防啓発」、中学生との交流会など、学び、相談の機能を充実させることができた。 ・外遊びをはじめのきっかけ作り、その楽しさを体感する機会となるよう、「おさんぼ はぐはぐ」(注5)を実施した。 <p>注1:「はぐミーティング」拠点利用者から参加者を募り、はぐはぐの樹の運営について意見や提案を自由に話し合うプログラム。 注2:「絵本サポーター」拠点利用者有志によるグループ活動。月1回程度の定例会のほか、拠点利用の際に絵本展示棚の整備や、ランチ前の読み聞かせ等を行っている。 注3:「しゃべリング」予約不要、出入り自由の座談会プログラム。様々なテーマで開催している。 注4:「はぐはぐの樹子ども図書館」交流スペースの中にコーナーを設け、絵本を中心に約3,800冊を所蔵しており、子ども1人につき3冊2週間までの貸出も行っている。 注5:「おさんぼ はぐはぐ」ぐみようじプレイパークと共催で実施する外遊び。</p>
<p>評価の理由(区)</p>
<p>① 拠点に出向いた際には利用者目線で確認し共有した。 ② ③ 妊娠期のニーズを把握し、それを拠点と共有した結果「プレママ会」のメニューが広がった。母子保健コーディネーターのモデル配置区を生かして、拠点との情報共有の機会を積極的に行っている。若年層を対象とした「わかママ会」は親と子のつどいの広場(M-HOUSE三春台)と協力して区内2か所で行うこととした。 ④ ☆保健師が区内5か所で行っている「おでかけ広場」に出向き、子育て相談や養育者の健康相談を行った。平成27年度から養育者が歯科の健康について学ぶ機会を提供できるよう、健康づくり係の歯科衛生士と連携し「おでかけ広場」で歯科相談を行っている。第2子以降へのアプローチができる点でも効果がある。また、歯科相談を多様な養育者に受けていただけるよう虫歯予測テストの説明書中国語版の作成につながり支援の幅が広がっている。</p>
<p>拠点事業としての成果と課題</p>
<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々なテーマでのプログラムの実施や、アウトリーチの場としての「おでかけ広場」の充実など、多様な養育者のニーズに対応する取組を進めることができた。 ・「はぐミーティング」を継続していく中で、利用者発案のプログラムやイベントが盛んになり、「絵本サポーター」のような自主活動も定着してきた。そのことが、日常の居場所にも影響して、利用者同士の支え合いにもつながっている。特に、はぐミーティング参加者は、その後の利用時に積極的に関わろうとする姿が見られるようになった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども同士が育ちあう居場所として、まずは、子どもが遊び込めるような環境(ゾーンを区切ったおもちゃの配置)整備を行った。しかし、保育所や幼稚園入所の早期化などにより、拠点の利用者は低年齢化していることから、子ども同士の関係性作りに難しさがある。 ・拠点の利用が短期間化している。だからこそ、この時期に地域につなげることや、利用者同士を結び付けることがより重要になる中、スタッフの声掛けや関わり方について再認識する必要がある。

振り返りの視点

- ア いつでも気軽に訪れることができ、安心して過ごせるような配慮、工夫をしているか。
- イ 居場所を訪れる様々な利用者(養育者、子ども、ボランティア等)の間に、交流が生まれるように工夫しているか。
- ウ 多様な養育者と子どもを受け入れる配慮や工夫をしているか。
- エ 養育者と子どものニーズを把握するための工夫をしているか。
- オ 把握されたニーズを区こども家庭支援課や関係機関と共有し、ニーズに応じて必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。
- カ 子どもの年齢・月齢に応じた遊びの環境が整備されているか。
- キ 子ども同士の関わりが尊重され、子どもが健やかに育つために必要なことに養育者が気付き、学ぶ機会を提供する場となっているか。
- ク 養育者同士が相談、情報交換し、課題解決し合う仕組みや仕掛けがあるか。

2 子育て相談事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①養育者とスタッフとの間に安心して相談できる信頼関係ができ、気軽に相談ができる場となっている。	・潜在的なニーズを抱える養育者の相談にも対応できるよう、相談連絡票の活用を含めた区と拠点のさらなる連携のあり方を検討していく。 ・多様な養育者へアプローチするためにスタッフの相談スキルの向上やスーパーバイズの体制づくりが必要である。	A	A
②相談を受け止め、内容に応じて、養育者を関係機関につなげている。また、必要に応じて継続したフォローができている。		A	B
評価の理由(法人)			
<p>【実績統計】 ひろば相談件数:平成29年度2,123件 ⇒平成30年度2,589件 ⇒令和元年度2,816件 【はぐはぐの樹利用者アンケート(平成元年度)】 スタッフに気軽に子育ての相談することができる:95.5% スタッフや他の利用者と交流を通して、子育ての悩みや孤立感が減った:82.0% 【南区地域子育て支援拠点「はぐはぐの樹」に関する利用者アンケート(令和元年度)】 スタッフや出会った保護者との交流を通して、子育ての悩みや孤立感が減った:そう思う38.7%、ややそう思う38.3%</p>			
<p>①【養育者が安心して相談できる場】 ・スタッフは身近な相談相手となり、信頼関係を築けるように「傾聴」「共感」の姿勢を大切にす。予約制の個別相談を受けるほか、スタッフの連携により個別相談につなげることができた。 ・助産師、「障がい児(者)の将来を考える会 泉の会」の方をアドバイザーとしたグループ相談の場を作り、情報交換や養育者の気持ちに寄り添った支援ができた。 ・利用者からの相談をきっかけにして、新たに「おしゃべりサロン ダウン症児育て」、区の栄養士による「こどものごはん」をスタートさせ、子どもの成長の見通しを持ちたい等のニーズに合ったプログラムを実施することができ、参加者に好評だった。 ・様々な理由で拠点に足を運びづらい利用者のために助産師、保育士、栄養士などの専門相談をオンラインを活用したグループ相談として実施した。 ・各相談プログラムは、より周知を図る為に年間日程を掲載したミニチラシを作成し、区にも周知を依頼した。 ・スタッフの内部研修では「妊産婦のメンタルヘルス」「児童虐待への対応」等を実施し、スタッフの相談のスキルアップを図った。</p> <p>②【利用者支援事業や関連機関との連携】 ・スタッフはひろばで受けた相談について、相談者の了解を得た上で、必要に応じて横浜子育てパートナーにつなげた。また、相談内容によって相談連絡票を活用してこども家庭支援課につなぎ、連携して継続的な見守りを行った。 ・一日の振り返りでは、相談への対応について、スタッフそれぞれの見立てや感じたこと等を話し合い、その後の相談対応や連携した見守りに生かした。</p>			
評価の理由(区)			
<p>①定例会では、継続支援が必要な相談について、区との役割分担を確認し、拠点が担う役割を個々に整理した。 ②「妊産婦のメンタルヘルス」「児童虐待への対応」等の研修をスタッフ向けに実施した。相談連絡票の活用を徹底し、継続的に支援できるよう、地区担当保健師やケースワーカーにつないだ。さらに理解を深められるよう、継続した支援をしていく必要がある。</p>			
拠点事業としての成果と課題			
<p>(成果) ・スタッフが同じ研修を受け、理解を深めたことで、対応が難しい場面に遭遇した時に、利用者に声をかけられるようになり、その後の支援につなげることができた。拠点の役割としてできること、対応を皆で確認できる機会となった。 ・日々の振り返りで多角的に利用者の様子を捉えて、スタッフ全体で関わりが持てるようにした。横浜子育てパートナーや区につなげた後も、必要に応じて、その後の支援状況を共有して、連携して継続的に見守りを行うことができた。</p> <p>(課題) ・スタッフの相談スキル向上については、子育て世代の抱える課題の把握、相談後のスタッフ振り返り、研修(内部、外部)等の機会で行っていく必要がある。</p>			

振り返りの視点

- ア 養育者が相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。
- イ どのような相談に対しても傾聴し、相手に寄り添う相談対応を行っているか。
- ウ 相談内容の傾向を把握し、振り返りを行い、望ましい対応の検討や共有に努めているか。
- エ 区こども家庭支援課との連携のもと、各種専門機関の役割を把握し、養育者への効果的な支援を行うための連携、連絡体制を作っているか。
- オ 専門的対応が必要と考えられる相談について、区こども家庭支援課と相談しながら適切に対応しているか。
- カ 関係機関とつながった後にも、役割分担に応じて、継続的な関わりを持っているか。

3 情報収集・提供事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①区内の子育てや子育て支援に関する情報が集約され、養育者や担い手に向けて提供されている。	・「はぐはぐの樹だより」やホームページ等、情報ソースはあるものの、それらを利用していない区民層のニーズを把握し、情報提供のあり方について検討する必要がある。 ・「南区子育てもっとネット」のメーリングリストが必要最低限の情報発信にとどまっておらず、関係機関がより手軽に情報交換できる方法についても検討する必要がある。	A	A
②子育てや子育て支援に関する情報の集約・提供の拠点であることが、区民に認知されている。		A	B
③拠点の情報収集、発信の仕組みに、養育者や担い手が積極的に関わっている。		B	B
評価の理由(法人)			
<p>【はぐはぐの樹利用者アンケート(令和元年度)】 情報コーナーは子育てに関する情報がわかりやすく配架されている:あてはまる 49.5%、ややあてはまる 47.0%</p> <p>【お出かけ広場利用者アンケート(令和元年度)】 情報コーナーは子育てに関する情報がわかりやすく配架されている:あてはまる 52.2%、ややあてはまる 36.2%</p> <p>【南区地域子育て支援拠点「はぐはぐの樹」に関する利用者アンケート(令和元年度)】 子育てに関する情報の入手について:友人・知人の口コミ 61.3% キーワード検索 33.3% ホームページ 25.8% 各施設の通信(紙のチラシ) 24.2% 広報よこはま南区版 23.5% Instagram 19.0%</p> <p>【南区地域子育て支援拠点に関する支援者アンケート(令和元年度)】 情報コーナーを知っている 94.7%</p> <p>【はぐはぐの樹ホームページアクセス数実績】 平成30年3月 2,021件 ⇒平成31年3月 2,753件 ⇒令和3年3月 2,573件</p> <p>【はぐはぐの樹Instagram】 令和2年5月23日開始 フォロワー数 396(令和3年5月28日現在)</p>			
<p>①【情報収集・提供の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はぐはぐの樹だよりを毎月約2,800部を発行し、区の事業や区内の公共施設、子育てサロン、各駅のPR BOXで配布した。拠点に来所が難しい利用者向けには「お出かけ広場」各会場にも情報コーナーを設置し、好評を得ている。 ・ホームページは平成29年6月にリニューアルし、スマートフォンでも見やすいレイアウトに変更した。支援者向け情報誌「こで」、拠点内の「プログラムのチラシ」のページを新たに作成し、ホームページ利用者に情報を発信した。 ・利用者からの意見を拠点のプログラム「はぐミーティング」(注1)などから取り入れ、拠点内の掲示板と情報コーナーの環境を整理した。保育園と幼稚園の情報を書き込める掲示板を分割し、それぞれの情報を設置している付近に移動したことにより、知りたい人と伝えたい人による活発な情報交換が行えた。情報コーナーはこれまでのエリア別からカテゴリ別(あそび・仕事・預ける・相談・その他)に変更し、子育てサロンとプログラムのチラシはそれぞれ専用の壁掛けフォルダーにまとめ、わかりやすく手に取りやすい配架をした。 ・令和2年5月より、新たな情報発信の手段としてInstagramを開始し、プログラムの発信等を行っている。 <p>②【情報の集約・提供の拠点であることの周知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「南区子育てもっとネット会議」(注2)でのPRや、各スタッフや横浜子育てパートナーが地域に出向いた際には、チラシや情報の提供を依頼し、拠点にチラシなどを配架できることを周知した。 ・区と協力し、はぐはぐの樹ホームページのQRコード付拠点PRポスターを乳幼児健診会場に掲示し、周知に努めた。また広報よこはま南区版に毎月拠点のプログラムを掲載し、さまざまな年代に向けて拠点の存在を知らせた。 <p>③【情報収集や発信への養育者や担い手の関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はぐはぐの樹だよりには、絵本サポーターによる募集記事や、子育てサークルから依頼されたメンバー募集記事などを掲載した。利用者主体のイベントやプログラムは当事者に原稿やポスターの作成を依頼し、情報発信に力を発揮する機会を作った。 ・「南区子育てカレンダー」(注3)はホームページのリニューアルでスマートフォンからでも入力できるものを導入し、年度初めに入力マニュアルを配付したことにより、「南区子育てもっとネット」参加団体からの入力が活発になった。代行入力の引き受けによって、情報掲載する施設・団体を増やすことができた。 ・Instagramを通じ、絵本サポーターがお勧めの絵本紹介を始めた。 <p>注1:「はぐミーティング」拠点利用者から参加者を募り、はぐはぐの樹の運営について意見や提案を自由に話し合うプログラム。 注2:「南区子育てもっとネット会議」安心して子育てできる南区を創るため、地域の子育て力を高めることを目的としたネットワーク。南区で乳幼児親子への支援事業を行っている施設・団体・関係機関が参加している。平成21年度発足。 注3:「南区子育てカレンダー」はぐはぐの樹ホームページ内にあり、南区の子育て関連の催しを掲載するカレンダー。各団体がログインして入力できるようになっている。</p>			
評価の理由(区)			
<p>①南区子育て応援マップ「おひさまだいすき」や拠点・親子のつどいの広場の紹介DVDの作成・発行し、乳幼児健診や各種手続きの待ち時間を活用して、子育て世代や担い手世代の人に向けて、拠点の役割や利用案内について発信している。また、こんにちは赤ちゃん訪問事業や転入時に「おひさまだいすき」を配布し、南区の子育て情報を提供している。</p> <p>②③子育て支援に関する情報の集約・提供の拠点の機能について、南区子育てもっとネット会議やこんにちは赤ちゃん訪問事業定例会、赤ちゃん学級などの既存の会議を通じて周知する機会を持った。</p>			

様式1-3 地域子育て支援拠点事業評価シート

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・「はぐはぐの樹だより」やホームページを利用しない区民層のニーズを検討した結果、継続的な実施と、利用者ニーズに合った周知方法としてInstagramを開始し、プログラムの発信などしている。拠点の利用再開時や新たなプログラムなどの広報、区の赤ちゃん学級の再開のお知らせ、絵本サポーターによるおススメ絵本などを投稿し、新しい形の情報発信を始めることができた。
- ・新たに広報よこはま南区版に毎月拠点のプログラムを掲載したことにより、拠点利用のないさまざまな層に向けて拠点の存在を知らせることができ、地域の方などからのプログラムや拠点についての問合せにつながった。
- ・「南区子育てカレンダー」への情報の入力については、周知の積み重ねにより地域ケアプラザや子育てサロンの各団体に直接入力してもらえるような体制となった。一方で、直接入力が難しい団体への丁寧な支援も行ったので、入力件数が増えた。

(課題)

- ・拠点を通じて子育て情報を発信したい人への支援。拠点のInstagramや「南区子育てカレンダー」を活用し、地域の子育て情報が地域に届きやすい環境整備を継続していくとともに、南区の子育て情報が集約し定着するようなより使いやすいツールを引き続き検討していく。
- ・拠点の情報集約・提供の機能を、区役所内や関係機関に発信する。

振り返りの視点

- ア 養育者や担い手が必要としている情報が何かをとらえ、区内の幅広い地域の子育てや子育て支援情報を収集・提供しているか。
- イ 来所が困難な養育者や担い手も含め、情報を入手しやすいよう、さまざまな媒体や拠点以外の場を通して情報発信しているか。
- ウ 利用者が情報を入手しやすく、自ら選べるひろば内の工夫をしているか。
- エ さまざまな子育て支援の場に出向いて収集した具体的な情報や、関係機関及びネットワークを通じて得た情報を養育者や担い手に提供しているか。
- オ 拠点の情報収集・提供機能を幅広く区民に周知しているか。
- カ 養育者や担い手から拠点に情報が届けられる仕組みや工夫があるか。
- キ 情報収集・提供の企画に養育者や担い手が関わる仕組みや工夫があるか。

4 ネットワーク事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①地域の子育て支援活動を活性化するためのネットワークを構築・推進している。	・地域の担い手がさらに日常的に連携することで、より身近な地域でのきめ細かい見守り体制を作ることができるとよい。そのためにも「南区子育てもっとネット」が予防的なネットワークの役割を担っていることを参加機関・団体が共有し、日ごろの活動にも生かすことができるよう働きかけが必要である。	B	B
②ネットワークを生かして、拠点利用者を地域へつないでいる。		A	B
評価の理由(法人)			
<p>【事業実績】 南区子育てもっとネット参加団体・施設数:平成29年度 57か所 ⇒平成30年度 62か所 ⇒令和元年度 66か所 【令和元年度第1回もっとネット全体会議参加者アンケート】 本日の第1回もっとネット会議はいかがでしたか:とても良い41.9%、良い58.0%(回収率72%) 【事業実績】 まちのほっとスペーススタンプラリースタンプポイント(参加支援場所)数:平成29年度 91か所 ⇒平成30年度 96か所 ⇒令和元年度 99か所 【まちのほっとスペーススタンプラリー参加者アンケート】 参加したきっかけは何ですか?(複数回答可):支援会場で勧められたから 53.7%(最多) スタンプラリーについてご意見・ご感想:「集めながら、色々な会場を知れて良かった。」「来年も参加したい。」 【はぐはぐの樹利用者アンケート】 はぐはぐの樹を利用することであなたの子育てに変化はありましたか?「地域の人と知り合う機会が増え、地域を身近に感じられるようになった。」「(「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計) 平成29年度 64.7% ⇒平成30年度74.5% ⇒令和元年度 77.5% 【南区地域子育て支援拠点に関する支援者アンケート(令和元年度)】 「はぐはぐの樹」に期待すること(自由記載):地区単位での情報共有・連携をしていきたい。地域の親子向けに講座を一緒にやってみたい。(防災やはじめてのさんぽなど)</p>			
<p>①【身近なエリアでの連携を進めるネットワーク】 ・「南区子育てもっとネット」(注1)では、年2回開催する全体会議でエリア別のグループを組み、情報交換や課題共有を行って、参加団体・施設同士の連携の必要性を確認した。その積み重ねの中から、地域ケアプラザを中心とした連携した取り組みとして、子育てサロンで災害食講座やボランティア養成講座、エリア子育てカレンダー、当事者アンケートが4つのエリアで実施された。 ・コロナ禍での南区子育てもっとネット会議の安全な開催方法として、2部制で人数を分散させたり、オンラインを取り入れて実施した。 ・連携に対して参加者全体の意識は高まっているが、具体的な継続した取組に、どのように発展させることができるか模索が続いている。 ・「永田支えあい祭り」「レインボー☆フェスタ」「南なんデー」「おみせサンタ」等の、地域や施設のイベントにも積極的に出展参加し、拠点事業をPRするとともに、他の施設・団体の方々との交流の機会にして顔の見える関係づくりができた。 ・南区地域福祉保健計画では、区全体計画「子育てネットワーク」について、各支援場所の取組の進捗状況を、オリジナルのシートを活用して毎年把握し、4つの重点目標別の一覧表を作成して、取りまとめを行った。</p>			
<p>②【妊娠期から就学前まで、地域の居場所につなげる工夫】 ・「まちのほっとスペーススタンプラリー」(注2)では、徐々にスタンプポイントや景品交換場所を増やし、親子と地域との接点を増やすことができた。令和元年度からは「マタニティーボーナスポイント」も導入して、妊娠期から地域とつながることができるようにした。</p>			
<p>注1:「南区子育てもっとネット会議」安心して子育てできる南区を創るため、地域の子育て力を高めることを目的としたネットワーク。南区で乳幼児親子への支援事業を行っている施設・団体・関係機関が参加している。平成21年度発足。 注2:「まちのほっとスペーススタンプラリー」南区子育てもっとネット参加施設・団体が開催している支援会場や地域イベントへの乳幼児親子及び妊婦の参加促進を目的とした催し。規定枚数を集めると、地域作業所のショップで小物やお菓子等と交換できる。</p>			
評価の理由(区)			
<p>①「南区子育てもっとネット会議」では、地域ケアプラザの地域交流コーディネーター、特別養護老人ホームと連携し、地域での子育て支援について発表していただく機会を持った。またグループワークでのプレゼンテーションをきっかけに子育てサロンで災害食の講座を大岡地域ケアプラザ・地域のヘルスメイト・サロンで協働して行った。令和元年度に睦地域ケアプラザエリアにて「堀ノ内・睦・薛田地区すくすく子育てネットワーク」を開催し、子育て当事者の声を支援者に届け、子育て家庭を見守る必要性や理解を深めた。今後、具体的な解決策に至るためにはさらなるネットワークの構築が必要。 ②「まちのほっとスペーススタンプラリー」に令和元年度からは「マタニティーボーナスポイント」を導入し、両親教室で妊娠期からの拠点利用を勧めたり、妊娠期から地域の赤ちゃん学級に参加できるように促している。</p>			

様式1-4 地域子育て支援拠点事業評価シート

拠点事業としての成果と課題

(成果)

・「南区子育てもっとネット会議」では、身近なエリアでの連携の必要性について、ロールプレイやグループワークを取り入れるなどの工夫で、意識を高めることができ、一部ではあるが地域ケアプラザを中心とした具体的な取り組みへとつながった。実施した中には、継続しているエリア、継続していきたいというエリアも出てきた。

・「まちのほっとスペーススタンプラリー」は、乳幼児親子が地域との接点を増やすきっかけ作りのツールとして、広く認知され、恒例行事として定着している。また、両親教室をスタンプポイントにしたり、マタニティボーナスポイントの導入により、妊娠期からも地域につながるような仕掛けができた。

(課題)

・身近なエリアでの具体的な取り組みを、南区内のすべてのエリアで進めていきたいが、エリアによって働きかけが難しいところもある。エリア内の子育てに関わる人とのつながり方や、継続的な取り組みを後押しできるネットワークの推進をどのようにしていけばよいのかを検討していく。

振り返りの視点

ア 子育て家庭や地域の子育て支援関係者のニーズを踏まえ、連携促進に取り組んでいるか。

イ 地域の子育て支援関係者が、互いに知り合い、理解し、子育て家庭の状況及び子育て支援の情報や課題を共有するための場、機会をつくりだしているか。

ウ 地域の子育て支援関係者が協力し、支え合えるように、関係者同士をつないでいるか。

エ 養育者を身近な地域の子育て支援の場につなげているか。

オ 子育て支援活動に関心のある方を丁寧を受け止め、必要に応じて身近な地域の活動へつないでいるか。

5 人材育成・活動支援事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①地域の子育て支援活動を活性化するため、担い手を支えることができている。	・地域のボランティアの力を拠点事業の中に生かすことはできたが、さらにサロンなどの地域の支援活動につながるよう工夫できるとよい。 ・地域の子育て支援の担い手を増やすための取り組みを、他の拠点機能や関係機関と連動させながら、長期的な視点で組み立て実施していけるとよい。	B	B
②養育者に対して地域活動の大切さを伝えるとともに、地域の子育て支援活動に関心のある人が、活動に参加するきっかけを作っている。		B	B
③広く市民に対して、子育て家庭を温かく見守る地域全体での雰囲気づくりに取り組んでいる。		A	B
④これから子育て当事者となる市民に対して、子育てについて考え、学び合えるように働きかけている。		A	B
評価の理由(法人)			
<p>【令和元年度支援者向け講座(「対人援助の基本と支援者のメンタルヘルス」)参加者アンケート】 本日の内容はいかがでしたか? :とても満足 80.5%、満足 19.5%(回収率90%)</p> <p>【はぐはぐの樹利用者アンケート(令和元年度)】 はぐはぐの樹を利用することであなたの子育てに変化はありましたか? :あてはまる32.0%、ややあてはまる42.0%</p> <p>【事業実績】 子育てサークル登録数:平成29年度11団体 ⇒令和元年度9団体</p> <p>【南区地域子育て支援拠点に関する支援者アンケート(令和元年度)】 「はぐはぐの樹」に期待すること(自由記載):地域の子育てサロンの参加者が減っており、その理由、現状、対策などを一緒に話せる機会があったらと思います。</p> <p>【区が実施した思春期講座の実績】 令和元年度講座受講人数:区内小学生73人。区内中学生248人。</p>			
<p>①③【南区のニーズに応じた講座・研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援者向けの講座・研修では、「外国人親子とのコミュニケーション」「離婚と子どもの人権」「対人支援の基本と支援者のメンタルヘルス」等、南区の課題や、ネットワークを通じて把握した支援関係者のニーズからテーマを選んで実施した。 ・区民向けの啓発を目的とした講演会では区内の実践者を講師に、医療的ケア児や、外国につながる子どもへの支援をテーマにして開催し、幅広い参加者を得て、理解を広げることができた。 ・子育て支援関係者向けの広報紙「にこで」を発行し、講演会や研修会の報告や、様々な地域の支援の紹介、情報提供を行い、支援場所運営の一助となるようにした。 ・新たな人材発掘を目指した子育て支援ボランティア講座を、「南区子育てもっとネット」(注1)で生まれた連携から3つの地域ケアプラザと共催で企画した。参加者の募集では苦戦したが、その内2か所でエリア内の活動につながった。 ・コロナ禍での支援活動に役立つようにZoom体験講座を実施した。 <p>②【当事者の力を生かす支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常の関わりやプログラム参加をきっかけにして、利用者の特技や興味関心を基にして、「絵本サポーター」の結成や、「しゃべリング GLOBAL FRIENDSHIP」の企画・進行などの継続的活動へとつながった。 ・「見守りOKバッジ」「通訳OKバッジ」は利用者同士の交流を促すとともに、支えあいの気軽な意思表示のツールとして利用者に浸透するよう工夫を重ねてきた。さらに活用されるよう促していきたい。 ・子育てサークルについては、メンバー募集や活動資金、運営についての相談を受け、PR協力や情報提供、関係機関へのつなぎなどの支援を行った。しかし、継続できなくなるケースが続き、サークル登録数は減少している。 <p>④【中高大学生との交流の多様化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南区内のすべての中学・高校に、職業体験やボランティア活動の受け入れの案内を送ってPRした結果、9校から継続して学生が訪れている。また、大学生のインターンシップや実習も定着している。 ・横浜国大付属横浜中学校3年生の家庭科の授業の一環で「おでかけ広場」利用者との交流会を毎年行っている。中学生が手作りおもちゃを持参するようになったり、妊娠・出産・育児について経験を語るゲストスピーカーに育休中の父親が参加したりと、年を重ねるごとに内容が充実してきている。 ・「まちのほっとスペーススタンプラリー」のスタンプシールの一部に、近隣の横浜総合高校の学生がキャリア教育の一環でデザインしたものを採用した。デザインにするにあたり、多くの学生が地域の子育て支援についての調査・取材に、はぐはぐの樹を訪れたため対応した。 <p>注1:「南区子育てもっとネット」安心して子育てできる南区を創るため、地域の子育て力を高めることを目的としたネットワーク。南区で乳幼児親子への支援事業を行っている施設・団体・関係機関が参加している。平成21年度発足。</p>			

様式1-5 地域子育て支援拠点事業評価シート

評価の理由(区)

- ①②子育てサロンに出向き、現状や担い手の課題の把握・共有はできたが、課題解決までには至っていない。一方、子育てサークルの支援はサークル数の減少が見られるものの、平成29年度、サークルのメンバー・六ツ川地域ケアプラザ・区・地域の関係者が話し合いを重ね、重層的に関わり新規に立ち上げたサークルもあった。
- ③令和元年度に睦地域ケアプラザエリアにて「堀ノ内・睦・蒔田地区 すくすく子育てネットワーク」を開催し、子育て当事者の声を支援者に届け、子育て家庭を見守る必要性や理解を深めた。【再掲:様式1-4ネットワーク】
- ④学校等への思春期講座を開催している。拠点の取り組みとの情報共有、課題の共有を行っていく必要がある。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

・普段のスタッフの関わりやプログラムへの参加の中で拠点利用者の活動意欲をキャッチして、力を発揮できる機会へと結び付けることができた。それが、拠点事業の充実につながり、広い意味での利用者同士の支え合いになっている。

(課題)

・地域の子育てサロン等に対して、担い手となるボランティアを発掘・育成する、広報周知の方法について学ぶ機会を設けるなどのサポートを、さらに多くの地域ケアプラザや区社会福祉協議会と連携して行っていくとよい。

振り返りの視点

- ア 子育て家庭や担い手のニーズを踏まえ、活動意欲の向上やスキルアップにつながる取組がなされているか。
- イ 地域の子育て支援活動がより充実されるよう、必要に応じて新たな活動希望者を結び付けているか。
- ウ 新たな担い手を発掘・養成する取組がなされているか。
- エ 活動希望を丁寧を受け止め、拠点内の活動や身近な子育て支援活動等に結び付けているか。
- オ 養育者が地域を身近に感じ、地域の活動に関心を持てるように働きかけているか。
- カ 地域で子育て支援に関わる人が増えているか。
- キ 子育ての現状や子育て支援の必要性を周知・啓発しているか。
- ク 子育て家庭(妊娠期の方を含む)を温かく見る気持ちを持つことができるように働きかけているか。
- ケ これから子育て当事者となる市民と子育て中の親子がふれあい、学び合う機会や場を作っているか。

6 横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①子育てサポートシステムに、多くの区民の参画が得られている。	・希望する依頼内容に沿ったコーディネートの実現と、一部の会員に偏りがちな負担を是正するために、さらに周知を工夫し、提供・両方会員数を増やす必要がある。	B	B
②養育者にとって、必要な時に利用しやすい事業となっている。		A	A
③会員が地域の支え合いの良さ、大切さを理解しながら、利用や活動を継続できるように、支えることができている。		A	B
④養育者の利用相談内容に応じて、子育て相談や他機関等の情報を提供し、必要な支援につなげている。		A	A
評価の理由(法人)			
<p>【令和元年度実績統計】 総会員数 502人 (利用会員398人 提供会員77人 両方会員27人) 総活動件数 1,652件(1か月平均138件) リフレッシュ利用 63件 集団入会説明会36回(うち出張26回) 総参加者数 103人 / 個別入会説明 55人 事前打ち合わせ同席数 99件</p> <p>【はぐはぐの樹利用者アンケート(令和元年度)】 子育てサポートシステムを知っている: 71.5% (うち、今後会員になろうと思っている 24.5%)</p> <p>【南区地域子育て支援拠点「はぐはぐの樹」に関する利用者アンケート(令和元年度)】 子育てサポートシステムを知っている:(保護者) 62%</p> <p>【南区地域子育て支援拠点に関する支援者アンケート(令和元年度)】 子育てサポートシステムを知っている:(支援者) 84.8%</p>			
<p>①【広く区民が参画するための工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流スペース(土曜日)、つどいのひろば2か所では毎月1回ずつ、地区センター、他つどいの広場など3か所では年2回ずつ定期的に集団説明会を開催した。 ・通常の周知チラシに加え、「幼稚園保護者向け」「保育園保護者向け」「新一年生保護者向け」など、対象者を絞ったチラシを作成し、区内関係各所に配架・配布を行った。新設の園には横浜子育てパートナーと共に訪問しPRを行った。 ・こんにちは赤ちゃん訪問員の定例会に出席し、事業や援助活動の現状説明等を行い、会員拡大のための周知協力を依頼した。 ・2期目は新たに提供・両方会員はPTA、商店街掲示板や、広報よこはま南区版等を活用して募集を行い、大幅な増加ではないが新たな会員登録につながった。さらに町内会、ボランティア団体等新たな周知先の検討が必要である。 <p>②【様々なニーズへのアプローチ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入会説明書類に、「初めての子サポ体験」のチラシを同封し、リフレッシュ利用についても周知した。 ・「初めての子サポ体験」を継続的に親子の居場所で実施した。援助活動の実際の様子を居場所の利用者が目にする事で、まだ利用していない会員の利用につながったり、入会の動機づけにもなった。 ・個別入会説明はタイムリーな対応を心掛け、積極的に行った。 ・「はぐはぐの樹だより」に横浜子育てサポートシステムのコーナーを毎月掲載し、横浜子育てサポートシステムの入会説明会の日程を周知した。 <p>③【丁寧なコーディネートと会員フォロー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・援助活動の依頼については、オリジナルのアプローチシートを活用することでコーディネーター間の情報共有を行い、利用会員・提供会員双方に最善の提案ができるようにした。 ・事前打ち合わせは会員同士が信頼関係を築けるような雰囲気づくりや、確認項目の配慮を行った。また、必要に応じて援助活動の様子を確認するなどのフォローを行った。 ・提供・両方会員には保育グループ「ぐるんぱ」(注1)への参加を勧め、会員同士の仲間づくりや、活動機会の増加に繋げてモチベーションアップができるよう努めた。「初めての子サポ体験」では、活動の少ない新しい会員に援助活動を依頼し、活動機会を作るようにした。 <p>④【他の機能・機関と連携した支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・依頼内容に応じて他の支援(保育・教育コンサルジュ、一時保育・預かり、産前産後ヘルパー派遣事業等)の情報提供や、横浜子育てパートナーの紹介を行った。依頼の段階で連携する必要が想定される相談者については、横浜子育てパートナー同席で丁寧な面談をしてコーディネートを行った。 ・依頼内容や援助の様子の確認等から、専門的な支援が必要と思われる相談を把握した際は、区にスムーズにつなぐことができた。 ・経産婦向けの横浜子育てサポートシステムのPRチラシを作成し、母子保健コーディネーターがモデル配置された平成29年度以降、母子手帳交付時に配布してもらったところ、保育園・幼稚園送迎の依頼が増えて妊娠期からの周知の効果が感じられた。 <p>注1:「ぐるんぱ」南区の横浜子育てサポートシステム提供・両方会員による一時保育を行うグループ。拠点が実施する講座などの保育を中心に子育て支援関連事業での保育依頼を受けて活動中。現在メンバー20名。</p>			

評価の理由(区)
<p>①年1回定期的に広報よこはま南区版で周知している。その結果、大幅な増加ではないものの新たな会員登録につながった。</p> <p>②訪問・乳幼児健診・母子健康手帳発行時の面接等の機会を捉えて、パンフレットを用い分かりやすく丁寧に説明した。経産婦には拠点作成の経産婦用のチラシを使用して説明している。</p> <p>③区拠点定例会にて活動報告や実績について共有し、課題と解決について拠点と検討した。</p> <p>④横浜子育てサポートシステムの説明会や利用において、多問題の課題があり支援が必要な相談を把握した場合、拠点は横浜子育てパートナーにつながり、その後区での支援に結びつける体制をとっている。結果、切れ目のない支援につながっている。</p>

拠点事業としての成果と課題
<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園・幼稚園・小学校など利用対象を絞ったチラシでの周知や、学校・商店街掲示板・区広報等の媒体を活用した提供・両方会員募集を行うことで、会員登録につながった。 ・活動依頼はオリジナルのアプローチシートを活用してコーディネーター間の情報共有を行い、利用会員・提供会員双方に最善の提案ができるようにした。 ・経産婦向けに作成した周知チラシを母子健康手帳交付時に配布し、母子保健コーディネーターとも連携して切れ目のない支援を行うことができた。 ・緊急事態宣言中も提供会員の協力の元、活動を継続して行うことができた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区境など提供・両方会員の少ない地域への会員増の働きかけ方の検討、新たな周知先の発掘が必要である。

振り返りの視点
<p>ア 区民に対して、子育てサポートシステムについての周知活動を行っているか。</p> <p>イ 提供会員数拡大に向けた取組がなされているか。</p> <p>ウ 養育者に対して、必要時に利用相談しやすく感じられるような周知活動等の工夫をしているか。</p> <p>エ 会員が相互の合意のもとに気持ちよく安全に活動できるよう、会員の状況に応じた活動方法の提案や、丁寧なコーディネートができているか。</p> <p>オ 会員の声の把握に努め、必要に応じて活動内容の調整や会員のフォロー、追加のコーディネート等を行っているか。</p> <p>カ 提供・両方会員が活動の意義を感じながら、安心・安全な活動を継続して行えるよう、研修会等の取組がなされているか。</p> <p>キ 会員の活動意欲を高めるため、会員間の交流をはかる取組がなされているか。</p> <p>ク 就労に関する以外の養育者のリフレッシュ等の理由での利用を促進する取組がなされているか。</p> <p>ケ 会員間で授受される個人情報を会員が適正に取り扱うことが出来るよう、注意喚起や研修等の取組がなされているか。</p> <p>コ 援助活動の調整等を通して把握した子育てに関するニーズを、必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。</p> <p>サ 専門的対応が必要と考えられる相談について、こども家庭支援課との連携、連絡体制のもと、適切に対応しているか。</p> <p>シ 子育てサポートシステム以外の子育てに関する相談に対して、情報提供等の支援ができているか。</p>

7 利用者支援事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①拠点における利用者支援事業が、区民や関係機関に広く認知されている。	・相談者の抱える課題に連携して対応できるよう、関係機関や地域関係者と情報共有や周知協力を通じて継続的に関わりを持ち、さらに関係性を深めていく必要がある。	B	B
②相談者に寄り添い主体性を尊重しながら、個別相談に応じ、適切な支援を行っている。		A	A
③子育て家庭を支えるためのネットワークの一員として、包括的な視点を持って子ども・子育て支援に関する関係機関や地域の社会資源との協働の関係づくりを行っている。		A	B

評価の理由(法人)

【はぐはぐの樹利用者アンケート】

「横浜子育てパートナー」を知っている(「知らない」「不明」以外の合計):平成29年度66.2% 平成30年度71.0% 令和元年度55.0%

【はぐはぐの樹利用者アンケート(おでかけ広場)】

「横浜子育てパートナー」を知っている(「知らない」「不明」以外の合計):29年度52.4% 30年度65.9% 元年度66.0%。

【南区地域子育て支援拠点「はぐはぐの樹」に関する利用者アンケート(令和元年度)】

子育てパートナーを知っていますか:知っている 35.7%

子育てパートナーの利用状況を教えてください:知っている人のうち相談したことがある 10.0%

【相談件数】

	新規	継続	面接	電話	出張	合計
29年度	119	27	41	34	71	146
30年度	179	99	205	27	46	278
元年度	153	173	217	58	51	326
合計(件)	451	299	463	119	168	750

令和元年度出張相談回数:子育てサロン、おでかけ広場、親と子のつどいの広場に毎月各1回、年間36回

【連携した関係機関】

【居場所・相談事業のプログラムを通じた連携先】:ひとり親サポートよこはま、障がい児(者)の将来を考える会「泉の会」、みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ、親と子のつどいの広場「M-HOUSE三春台」

【個別相談への対応における連携先】:横浜型医療的ケア児・者コーディネーター、「家庭生活支援員」派遣事業者、認可保育所、発達障がい児を育てる親子サークル「こんべいとうKIDS」、移動情報センター、みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ、他区横浜子育てパートナー、中央児童相談所

①【妊娠期及び子育て家庭に広く周知と利用の働きかけ】

- ・幼稚園・保育園家庭にも園を通じて横浜子育てパートナーのチラシを配布し、父親や祖父母からの相談もできることを周知した。件数は少ないが、母親以外の養育者からの相談もあった。さらに認知度を上げていくことが課題である。
- ・両親教室や妊娠期のプログラム(プレマ会)で産前から利用できることをPRし、電話でも気軽に相談できることを周知相談件数が増えた。
- ・こんにちは赤ちゃん訪問員、民生委員・児童委員の各定例会で、横浜子育てパートナーの受けている相談事例を伝え、利用につながるように依頼した。
- ・おでかけ広場(注1)や地域の支援場所へのお出張相談では拠点を利用したことがない親子にも関わることができ、必要に応じて拠点のプログラムを紹介して利用につながるがあった。

②【相談者の主体的な選択を尊重する傾聴姿勢】

- ・横浜子育てサポートシステムと連携して対応する相談は、区の制度やサービスを確認したうえで、必要な情報提供をし、養育者の選択を尊重して対応した。
- ・電話での相談は夫婦関係・家族関係の相談が多くあり相談者に寄り添い傾聴に努めた。相談者の状況によって相談窓口や関連機関に同行した。
- ・妊娠期からの拠点利用が増える中で、妊娠期や出産後の生活支援が必要と思われる方へは、区の支援を紹介し保健師や母子保健コーディネーターと連携し制度やサービスが使えるように仲介をした。
- ・専門的な支援が必要な相談については、役割分担を意識し区の支援を紹介した。区につながった後も拠点内では継続した見守りを行った。

③【地域の関係機関との協働の関係づくり】

- ・若年層への支援「わかママ会」を親と子のつどいの広場「M-HOUSE三春台」と区と連携して実施した。三者で振り返りを丁寧に行うとともに、つどいの広場のスタッフとも密に情報共有して参加者のニーズを把握し、毎年より良い方法を模索して運営に反映させた。
- ・居場所事業や相談事業のプログラムに利用者支援事業の機能を生かして取り組むことで、支援を必要としている利用者をキャッチできたり、相談者を居場所や他の利用者へつなぎやすくなった。また、「ひとり親サポートよこはま」、「障がい児(者)の将来を考える会 泉の会」、子育てサークル等とも連携して行ったことで、現状や課題を共有でき、新たなプログラムの実施へと関係性を深めることができた。
- ・「みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ」と共催で、外国人親子を対象にしたアウトリーチのプログラムを新たに定期開催した。
- ・医療的ケアの必要な子を受け入れる保育園が少ないため、新設されたばかりの「横浜型医療的ケア児・者等コーディネーター」に連絡を取り、お互いどのような支援ができるのかを確認し、情報共有しながら対応した。

評価の理由(区)

- ①妊婦に向けて母子健康手帳交付時に横浜子育てパートナーへの相談は妊娠期から利用できることを案内している。両親教室で横浜子育てパートナーが妊娠期からの利用について説明できる機会を作り、その結果妊娠期からの拠点利用につながっている。
- ②横浜子育てパートナーが母子保健コーディネーターや保育・教育コンシェルジュと情報共有する機会を持ち、相談内容に応じたお互いの役割について確認した。
- ③個別支援を通して個々の関係機関とのつながりはある。今後、子育て家庭が抱える不安や求めるサービス等の相談傾向や課題を提起して関係機関に発信し、社会資源の発掘につなげる機会がさらに持てるとよい。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・拠点から離れた地域にも出張相談を行い、居場所や横浜子育てサポートシステムの利用につながった。
- ・傾聴・受容の姿勢を大切にするとともに、相談者の状況に応じて必要な情報収集を行い、相談者が主体的に選択できるように提案して、ニーズに沿った支援ができた。
- ・継続した相談が増加する中で、地区担当保健師、母子保健コーディネーター、保育・教育コンシェルジュとの連携によって安定した見守り・支援ができた。

(課題)

- ・個別支援を通して把握した課題について、関係機関との連携を取る際に丁寧に伝えて共有したり、解決策を提案するなどしたが、具体的な支援につなげることができなかったこともあった。子育て家庭が抱える不安や求める支援について関係機関に発信し、拠点の他事業とのつながりを生かして、不足する資源の発掘に取り組んでいく。
- ・南区子育てもっとネット関連団体と顔の見える関係はできているが、まだ、つながりが薄い幼稚園や地域ケアプラザとも連携がとれるようにする。

振り返りの視点

- ア 利用者支援事業を幅広く区民や関係機関に周知しているか。
- イ 養育者に対して、気軽に相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。
- ウ 最新の情報を収集し、活用できるよう工夫しているか。
- エ 相談に対しては、傾聴に努め、ニーズを把握して対応しているか。
- オ 拠点内連携、関係機関への紹介・仲介・支援依頼等について、相談者が円滑に利用できるような対応をしているか。
また、専門的な対応を要する相談については、内容に応じて速やかに関係機関に紹介・仲介する等、適切な対応を行っているか。
- カ 拠点内連携、関係機関への紹介・仲介後も必要に応じて役割分担を確認しながら継続的な関わりをもっているか。
- キ 相談の対応状況や支援の適切さ、拠点内外での連携状況等について、多角的な視点から振り返りや検討を行っているか。
- ク 拠点のネットワークを活用し、関係機関や地域の社会資源との関係づくり・関係強化を行っているか。
- ケ 利用者支援事業の周知や個別相談等の取組を通じて、支援につながる新たなネットワークの構築を行っているか。
- コ 把握した課題を関係機関等と共有し、拠点事業の充実や、必要な支援の調整や見直し、不足する資源の調整や提案につなげているか。

協働事業プロセス相互検証シート

1 事業計画段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

・南区の子育て家庭の特性は共有できている。また、それに対応していくために必要な知識は定例会や研修を通じて共有できている。特に子育て世代包括支援センターの両輪としての役割分担と連携の在り方については具体的に話し合うことができています。

【今後改善が必要と思われること】

・目指す拠点の姿に近づくためにそれぞれが何をできるかを考え、役割分担を決めていく主旨の話し合いの機会をもつことが必要である。

2 事業実施段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

・母子保健コーディネーター・保育教育コンシェルジュ・横浜子育てパートナー間で、お互いの役割を理解し共有しながら、妊娠期からの切れ目ない支援として「プレママ会」「幼稚園保育園説明会」を実施できた。個別の相談に関しても、区と拠点の役割等について情報共有し、安心して相談の継続ができた。
・区・拠点・親と子のつどいのひろば3者で、若年層への支援の目的や対象層、実施方法について打合せを重ね「わかママ会」を企画・実施できた。役割分担に関しては、確認不足のまま進めていた時期があった。
・歯科相談、栄養相談については、区福祉保健課と拠点が連携して地域で相談できる機会を増やすことができた。

【今後改善が必要と思われること】

・南区社会福祉協議会、地域ケアプラザ、他団体や地域とともに行うネットワーク構築については、区の他部署（福祉保健課、地域振興課）も含めた丁寧な打合せが必要。
・地域の子育て情報が拠点に流れてくるような情報収集と、地域への情報発信の仕組みづくり。

3 事業の振り返り段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

・ひとつひとつの事業について定例会で報告して意見交換ができた。
・長期的な方向性については、十分な話し合いの機会を持っていない。

【今後改善が必要と思われること】

・事業の長期的な見通しや目指す姿の設定などを通じて職員全員の考えを話し合い、共有する時間を持てるとよい。
・子育て支援に関わる関係者の拠点への期待、求める役割について、年度ごとに意見を聴取できる機会を持ち、振り返りや目標設定に反映させられるとよい。